

幼児性行評定尺度に就て (三)

五、幼児性行評定尺度のその使ひ方 淡路圓治郎

(イ) 記入票

私共が先に提出しました五十二對の性行項目の中で、二十八名の保姆の先生方によつて、陶冶の必要度が比較的に大有り、しかも實際の陶冶が餘り困難でなく、また觀察も割合に容易であるを認められましたものは三四十項目に達しましたが、夫等には相互に重複したものもありますし、敘述の改良を要するものもありましたので、多少の整理を加へ、兒童の性行の各方面を把へ得て、しかも繁雜に亙らぬやう注意を致しまして、比較的の有効適切を信ぜられる二十對の項目を以て、幼児性行評定尺度試案を作成いたしました。

選ばれました二十對の性行項目は、次に掲げました記入票にある通りであります。私共は幼児の保育上、これだけの觀察で十分だを考へるわけではなく、また他に附加すべき性行項目がないものでもなく、單に暫定的に今回はこの二十對を選んだのであります。今後實施の結果に基きまして、右の中不適當なものは除き、別に必要なものがあれば挿加へまして、漸次改善して行きたいと思ひます。

幼稚園に於てこの種の評定尺度を制定せられる向は、前掲の記入票を一例と見て、自園の保育方針を保育せらるべき兒童の性質に鑑み、保育上有意義な項目を選定して、適宜に合目的な尺度を作成せられんことを望みます。この場合、前號所載の諸表は参考資料として相當に役立つことを信じます。

幼児性行入票は端書大の印刷せられたカードで、幼児一人毎に一枚を用ひます。この記入票の上部には、觀察對象であ

幼児性行評定尺度

(試案)

姓名.....
 昭和 年 月 日生
 組名..... 組

観察者 { I.....
 II.....
 III.....

-2 -1 0 1 2

1	氣むづかしい					氣輕である
2	興奮し易い					平靜である
3	何事にも興味が薄い					物事を知りたがる
4	氣が散り易い					よく注意する
5	倦きつぼい					根氣がよい
6	性急である					落つきがある
7	元氣がない					元氣である
8	獨創が少い					工夫をこらす
9	意思を發表しない					率直である
10	言ひなり次第になる					自分の考で行動する
11	ひとの厄介になりたがる					自分のことは自分でする
12	剛情をばる					すなほである
13	ひとりぼっちを好む					協力する
14	我儘に振舞ふ					秩序を守る
15	ふざけたがる					惡ふざけをしない
16	れたみ深い					それまない
17	よくすれる					我慢する
18	ひとをいぢめる					睦み合ふ
19	冷淡である					ひとの面倒を見る
20	ものを粗末にする					ものを大切にす

I	備考
	處置
	效果
II	備考
	處置
	效果
III	備考
	處置
	效果

る幼児の姓名、生年月日、組名を記入する欄に、観察者である保姆の姓を記入する欄があり、中央部には左右に對をなすやうに書き並べた二十組の性行項目と夫々を100.0.0.0.0の五段階に區切る五本の線があり、下部には觀察者毎に備考、處置、效果を記載すべき空欄があります。

(四)項目の解説

1、「氣むづかしい——氣輕である」。幼兒には神經質で、機嫌のみにくい、反撥的な子供があります。生れつき氣むづかしいこどももあり、身體が弱くて氣むづかしいこどももあり、境遇上氣むづかしくなつてゐるこどももあります。問題の幼兒がどの程度に氣むづかしいか、また何故に氣むづかしいかを知るこどもは保育上必要なこどもであります。

2、「興奮し易い——平靜である」。一寸したこどもでも刺戟され易く、すぐに興奮の状態を示す子供があります。いつもイラ／＼してゐて、心が落つかず、何かに感じるこもぎく熱中して、夜もよく眠れない位に興奮し、つまらぬこどもが氣に懸つて、容易に忘れられません。この種の幼兒は一般に過敏で疲れ易い傾があります。これも前項の神經質關係のあるこどもがありますが、また、特に氣むづかしくはなくて興奮しやすい場合もあります。體質上興奮し易いものもあれば、病後刺戟性の昂まるこどももあり、また境遇があまりに刺戟的のために興奮し易くなつてゐる場合もあります。

3、「何事にも興味が薄い——物事を知りたがる」。幼兒の中には感激性が薄く、何事にも興味を抱かず、一向物事を知らたがらぬ子供があります。倉橋先生の云はれる「氣の鈍い子」が之に當るのではないか思ひますが、この種の幼兒は別に低能でもなく、病氣でもないのに、いつもボンヤリしてゐて、氣に張りがなく、外部の刺戟に對しては受動的で、自ら進んで問題を解決したりまた積極的に他人に働きかけたりするこどもをいたしません。嬉しいこどもがあつてもこもぎく喜びません。叱られてもこもぎく悲しみません。一見感じが鈍いやうに見えます。

4、「氣が散り易い——よく注意する」。始終一つのこどもにじつくり心を落つけてゐるこどもが出来ず、次から次へ氣が散つて、キョロ／＼してゐる子供があります。目まぐるしいほぎ氣が變りやすく、たえず傍視をしたり身體を動かしたりして、一つのこどもに精神を集中するこどもをしません。自然注意が散漫で、先生の云ふこどもや他人のするこどもが心に留まらず、印象が上滑りをして深く頭腦に残りません。また一般に眞剣な態度がなくて、十分に努力する所がありません。この種の傾向は先天性よりは寧ろ習慣に由る場合が多いやうに思はれます。

う、「倦きつほい——根氣がよい」。これは前項の傾向に部分的には聯關してゐます。元來注意が散漫で、絶えず次から次へに興味の對象が移つて行くために、一つこゝを遣り遂げるこゝが出来ないで、倦きつほく思はれるこゝもありません。また物事に相當に興味をもつて居り、一時は可成り注意を集中するが、永續しなないために倦きつほく見えるこゝもありません。ある場合には熱し過ぎるために反つて冷め易く、間もなく精神の緊張が弛んで、反動的に厭氣を生じて、耐へ難くなるこゝさへもあります。原因は種々でありますが、結果に於て飽きつほく根氣の薄いこゝは一つであります。飽きつほい子供を根氣よくするための保育手段は、原因に従つて夫々異らなければなりません。先づきの程度に根氣が薄いかを知るこゝは、保育の第一歩として必要なこゝであります。

6、「性急である——落つきがある」。何かの動機に動かされて行動する際に、幼児は大人に比べるこゝ、いつも必ず衝動的で、待て暫しが無く、可成り性急であります。何か欲しくなるこゝ暫くの我慢が出来ませんし、何かを思ひつくこゝすぐ下手につけないでは承知しません。しかし同じ幼児の中でも、この種の傾向が特に強い子供が有りますして、刺戟を受けるこゝ直ぐに反應して、少しも分別をしたり選擇をしたりしないものがあります。その動作は反射的で、いつもせつちかちで、氣短かであり、殆んぎ落付きがなく、何等前後の見境がありません。また慌てるもので、輕はづみであり、思慮の不足のためによく、失策を重ねたり。この傾向は先天性からも來ますが、家庭の躰け方や本人の習慣なごからも生じるものがあります。

7、「元氣がない——元氣である」。動作が不活潑で元氣がなく、きここなく生活力の薄弱を思はせる子が有ります。病氣や榮養不良なごのために元氣のない子供も有りますが、體質上元氣に乏しい子供も有ります。また失望落膽その他の精神沮喪のために氣魄が衰へて、一時元氣のなくなる場合も有ります。殊に家庭の不和、虐待、冷遇その他境遇上の事情によつてこの種の狀態に陥つてゐる子供が有ります。

8、「獨創が少い——工夫をこらす」。幼児の行動は一般に模倣的で、人真似である場合が多い。先生や父母や兄弟のする所や云ふことを殆んどその儘反復的に模寫します。然し幼稚園に入る位の年齢になりますと、想像力も相當に發達して参りまして、人真似ばかりをしてゐるのではないで、自分で工夫も凝せば、またある度の創意をも示します。この年齢に達してもなほ微塵も獨創らしいものが認められないやうでは、精神の發育が遅れてゐる云はなくてはなりません。全く所動的に人真似ばかりをしてゐる子供は、適當な手段で早く、多少でも自分で工夫を凝らすやうに導いてやりたいものであります。

9、「意思を發表しない——率直である」。教育は教師と兒童との對人作用でありますから、先づ兩者間の意思疎通が何よりも必要であります。ところが幼児の中には、生來無口でいつもむつつきしてゐて、餘り自分の意見を表示しやうとしない子供もあれば、また教師に馴染まなかつたり羞かしがつたり怖れたりして、不機嫌に口をつぐんでゐて、頑固に自分の意思を表明することを拒むやうな子供もあります。前の子供はいつ誰の前に出ても話したがらないのですが、後の子供は家庭なごでは大に喋るのに、幼稚園では少しも口をきかないのです。後の子供は最初は頑固ですが、少し馴染ませ、一寸したキッカケを作つてやるに、率直に意思を表示するやうになり、後には反つて大におしやべりをする位にもなりますが、前の子供は最初はひびくだけになほりも悪く、到底能辯にするなごさいふごこは出来ません。然し、自分の意思を發表するに遺憾のないだけに導くごこは困難ではなく、その修練によつては、簡潔明快に所信を表現する雄辯家は、寧ろこの種の子供の中から出るものであります。

10、「言ひなり次第になる——自分の考で行動する」。父母、先生、年長者、その他目上のものに對して、いつも言ひなり放題となり、自分の考で一應分別して行動しないで、全く暗示的に動作する子供があります。かういふ暗示性に富んだ子供は、自分の考をもちませんから、自他のなすごこを批判するごこ出来ず、道德的にはいつ迄も低い状態に止まつて

るなければなりません。こんな子供はよい人が一指にゐるに正しいことをしますが、悪い人が傍にゐるに間違つたことを仕出かします。幼児は皆最初はこんな風ですが、幼稚園に入る頃にもなれば、幾分は分別が出来て来て、自分のことは一應自分が考へた上で動作するやうになります。この時期になほ未だ人の云ひなり次第になつてゐる様では、意志の發育が遅れてゐるのですから、この方面の陶冶を加へてやる必要があります。

11、「ひこの厄介になりたがる——自分のことは自分でする」。この問題は幼児の獨立心、又は自治の習慣に關するものであります。幼児の中には身體の虛弱、知能の低劣なごのために保護者の手を煩はさないでは動作することをむづかしい子供もありますが、幼稚園へ来る位の子供では、そんなのは寧ろ少く、家庭で平素可愛がり過ぎて、何から何迄母親や女中が面倒を見てやる所から、自然、獨立心がなく、人手を借りるのを當然に考へ、また自分で自分のことを仕末しやうといふ氣さへ起らない場合の方が多いやうであります。即ちその多くは習慣から來たものですが、中流以上の家庭にはこのやうなひこの厄介になつて平氣でゐる子供が珍らしくはありません。

幼児を社會化するには、先づ自分のすべきことを認識させて、これを人手を勞しないで自分で仕末をつける習慣を養はせることが必要でありますから、幼児自身がこの點に關してどんな状態に在るかを知ることは大切であります。

12、「剛情をはるすなほである」。教育は一種の訓練でありますから、生徒は先づ教師を敬愛して、その指圖に服従することが必要であります。幼児の中には境遇上反抗的となり、目上を尊敬する念に缺けてゐて、先生を先生とも思はず、命令に服さないものがあります。こんな子供はいつも自分の思ふ通り振舞ひたがつて、押へられるに反撥し、この迄も片意地を通さうと頑張ります。一旦思ひこむと、執念ぶかくいつ迄も忘れないで、之を實行しなければ承知しません。こんなの他に、また、機嫌かひで、平常は比較的にすなほであります、機嫌をそこなふとつむじを曲げて、一時ひさく剛情になる子供もあります。後の子供は機嫌がよい時は一倍柔和であるのに、一寸したことで、感情を

害し易く、一旦つむじを曲けたまなります。誰のいふこもをきかず、駄々をこねて傍から手がつけられないやうになります。幸に感情が治まります。また頗るすなほになります。

即ち反抗的であるために依怙地であるもの。感情が強すぎ自制心足りないために剛情になるもの。前者は先づ環境から改めてやこもに矯正を要しますが、その陶冶の仕方は原因に従つて夫々異ならなくてはなりません。前者は先づ環境から改めてやるべきであります。後者は不斷おこなしい時にやさしく訓戒を加へてやらねばなりません。

13. 「ひこりほちを好む——協力する」。この傾向は可成り生來素質に關係して居ります。内氣な生れ付きのものは羞耻が強く、ひこみ接觸することを好まず、ひこみ一緒に遊ぶよりは獨りで片隅に引込んでゐるたがります。生來社交性の少い孤獨すきな子供であります。然しまた一人子であつたり、兄弟の年齢が距り過ぎてゐるために同輩として一緒に遊ぶ機會が少かつたり、或は家庭で風にも當てぬやうに大切がられて他の子供と接觸することを禁じられたり、近くに適當な遊び友達になかつたりしたために、人馴れないで、新しく幼稚園に入るを暫くは友達を避けて、ひこりほちになりました。子供があります。これは生れ付き社交性が薄いこいよりは社交性の伸びる機會が與へられなかつたものであります。また環境に對して順應するのに骨が折れて、人なつかしがるに拘らず、積極的に仲間を求めないでゐる臆病な子供もあります。こんな子供は自宅では仲のよい馴染友達を集めてよく一緒に遊ぶのですが、幼稚園のやうな多勢新しい同輩のゐる所では尻込みをして、怖氣づきます。即ち諺にいふ「内廣がりの外つぼまり」。「か」家の中では鮑貝、家の外では蜆貝の子供であります。

この種の幼児も少し馴れて來ます。ひこみ一緒に遊び仕事を偕にするやうになりますけれども、第一種の子供だけは矯め難く、腹の底から打こける所がなく、いはゞ仕様がなしにつきあつてゐる程度に止まります。

14. 「我儘に振舞ふ——秩序を守る」。この傾向は寧ろ平素の躰けの不足から起るもので、これ迄の習慣に由る所が大であ

ります。家庭で甘やかされた子供、恐いものなしに育てられた子供、頭を抑へられたこがない子供、要するに境遇がよ過ぎた子供に多く見られるものであります。他人の思わくを憚つたり、ひみの身になつて考へたりしないで、自分の慾望だけに動かされて仕たい放題に傍若無人に行動します。即ち我身をつねつてひみの痛さを知るこいふ風な同情的な所がありません。然しこんな子供は生來同情心がないこか、冷淡であるこかいふのではなくて、團體的訓練を受けたここがないために、いつも我意が通じて行けるつもりであるのであります。

幼稚園に入つて、同輩と一緒に接觸してゐますこ、四周から揉まれて、間もなく物事は自分の思ふ通りにばかり行かないものである事が自然に合點できまして、自づから我儘を慎しむやうになつて参ります。然し中には我儘一杯の癖が強く、なか／＼癒り難い子供もありますから、先生が適當な方法で此癖を矯めてやらねばならぬ事も少くはありません。

15、「ふざけたがる——悪ふざけをしない」。幼児の中にはお調子にのる子供がありまして、感興にまかせてひみからかつたり、衆をたのんで悪ふざけをしたりするものがあります。これは生來外向性傾向の強い子供によく見られる所ですが、家庭での育て方にも關係があります。一般に幼児はおだてられたり、喝采されたりしますこ、調子づいてふざけたがる傾がありますが、度を超えて悪ふざけをするやうな子供は、多くの場合、興奮性が特に強くて自制が出来にくい様であります。かういふ子供は餘り興奮させないやうに、また煽てゝ人氣者に祭り上げないやうに氣をつけて保育しなければなりません。

16、「ねたみ深い——そねまない」。ねたみは可成り小さい子供の時分から認められます。殊に女兒では相當に顯著なものがあります。これは所有本能や自己擴張本能なこ關係がありまして、最初は單にひみの持つてゐるものを自分も持ちたがつたり、ひみと同様に自分も褒められたがつたりする程度ですが、慾望が満足されにくい境遇に在つたり、満足されない場合が多かつたりしますこ、不満の情を刺戟を與へる相手方に轉移して、ひみを羨望したり嫉妬したりするやう

になります。何事かに關して一旦こゝういふ傾向が出來ますと、事毎に他人をねたみ、そねみ易くなり、また自分が順境にあれば、ひみに見せびらかせ、ひみを羨ましがらせて樂しむこゝいふ風な状態になります。かういふ氣持は吾々大人になつても無くなりませんが、大人ではこれを醇化して奮發したり努力したりするこゝもあるのですから、強ち悪いさばかりも申せません。然しこの傾向の強すぎる子供では、これがために社會的行動を忌避したり、反社會的になつたりする場合がありますから、適當な方法で相當に矯正する必要があるませう。そのねたみそねみの感情醇化して、子供が得意とする事柄や恵まれてゐる方面で満足な味はせてやるのも一法であります。さりましてこの感情を利用して無暗に競争心を煽り立てるなごは禁物で、頗る行き過ぎこゝ云はねばなりません。

17、「よくすねる——我慢する」。感情の強い子供や我儘に育てられた子供は、自分の慾望が満足されなかつたり、意の儘に振舞へない場合には、不平不満の念に驅られて、すねたり膨れたりいたします。殊に我意をつき通すこゝがむづかしい場合や積極的に抵抗の出來ない相手に對しては、唯一の武器として不平不満の態度を示し、憤慨の情を漏すために、無關係の事柄や罪もない人々に對して、當り散らします。之は不快を抑へ不満をこらへる耐忍心が足りないためでありまして、恵まれた家庭の子供によく見られる所であります。幼稚園で多勢の仲間を伍してゐます裡には、社會的に訓練せられて、世の中のこゝは自分の思ふ儘には行かないものであるこゝを悟り、我慢をし諦めるこゝが出来るやうになります。保育の手段としては、直接事毎に叱責するよりは、かういふ自然の訓練に托せて置く方が賢明であります。然しすねる傾向の特に強い子供では、適當な方法でなるべく早くこの惡癖を矯めてやらねばなりません。

18、「ひみをいぢめる——睦み合ふ」。これは14、15の項目なごゝ幾分の關係がありますが、また別箇に存する場合もないわけではありません。即ち我儘の結果ひみをいぢめるこゝもあれば、惡ふざげの結果が弱いものいぢめになるこゝもありますが、またひみをいぢめるこゝそのものに快感を覺えて好んで弱いものいぢめをするやうなものもあります。ある年齢

期には一般にこの種の作虐的傾向が現れ勝ちですが、之が特に顯著に現れる變態的な子供も無いわけではありません。しかし、これ等の區別は餘り嚴密ではなく、お山の大将になりたくて意に従はぬものをいぢめてゐる裡に自然弱いものいぢめが面白くなつて來てしまひには甚だしく作虐的になる場合なごも珍らしくありません。

他人に對する同情や親愛の念は社會生活の基調をなすものでありますから、幼稚園では特にこの種の傾向ある子供には十分の保育を加へてやらなくてはなりません。

19、「冷淡である——ひきの面倒を見る」。幼兒は元來自己中心的で、直接關係のない他人のこごには、頗る冷淡な傾があります。多少物心がついて參りますと、弟妹が弱小者ごかに對しては、相當に面倒を見るやうになり、また大人振つて世話をやきたがるやうになります。然し乍ら、一人子であるごか、ひきの面倒を見る機會に乏しかつた子供なごでは、いつまでも他人のこごには冷淡で、無頓着であり、援助ごか奉仕ごかをしやうごもせぬものがあります。大人のやうに特に惡意があつて冷酷に振舞ふのではなくて、全く氣がつかなくて冷淡になる場合が多いやうであります。他人に對する配慮や助力も亦た社會生活上肝要なものでありますから、それらの習慣のない子供には、適當に訓練を與へて、他人殊に弱少者に對する奉仕援助の習慣をつけてやる必要があります。

20、「ものを粗末にする——ものを大切にする」。この傾向は専ら家庭に於ける幼兒の習慣に由るものであります。贅澤に育て上げられた子供や、自墮落に仕たい放題に育てられた子供や、無頓着に野放して育てられた子供なごには、この種の傾向が頗る強くて、容易に矯正し難いものがあるごがあります。

ものゝ値打を知りその有難味を悟らせるごごも保育上大切ですが、ものを粗末にするごごが他人にこんな迷惑を及ぼし不便を與へるかを會得させるごごも必要であります。儉約ごか節儉ごかいふごごよりは、寧ろ一種の公德ごしてものを大切にする習慣を養はせる方が一倍適切なのではないかと思はれます。

以上の解説は選ばれた箇々の性行項目の性質を説明するために便宜引例せられたものでありまして、必ずしもあらゆる場合を盡くしてゐることは思ひません。また所説そのものにも、ある立場からすれば、不穩當な考へられるものもないことは云へません。然し評定尺度を制定し運用して行くためには、豫め觀察項目として選ばれた諸種の性行の意味内容を一定して置く必要がありますから、箇々の條項に就ては、各幼稚園で一々仔細に検討の上、その内容を一定せられるのがよいと思ひます。たゞ一例までに我流の解説を試みて見ました。

(ハ) 評定の時期

幼稚園に於ては、兒童の性行は絶えず觀察せらるべきでありまして、觀察に時期を限る要はあるまいと思ひます。然し乍ら、觀察の結果を保育の参考に資し、之に基いて各兒童の保育の方針を定め、若くは之によつて保育の効果を窺ふためには、一定の時期を定めて、計畫的に詳定する必要があります。即ち平素の觀察を時々整理して、保育に活用しなければなりません。

私共は先の記入票では、評定期期を三期に定め、入園直後(第一學期の後半期)、一年の終、二年の終の三回、評定記入する事にしてあります。之は二年制の幼稚園の場合でありますが、一年制の幼稚園では入園直後と年度の終との二回で十分でせうし、三年制の幼稚園では、一年目に一回、二年目に一回、三年目に一回といふ風に評定せられても差支へはないでせう。また、ある種の項目ではすぐに評定の出来るものもありませうが、ある種のものでは評定する迄には相當に長く觀察を重ねなくてはならぬものもあるでせう。更にまた、ある兒童では容易く評定が出来るが、他の兒童では評定に手間ざるに云つた場合もあるかもしれません。

右の時期は大體の目安でありますから、適宜御考慮の上、適當なる機會に評定記入せられん事を希望いたします。(未完)